

ひまわり

札幌市立幌北小学校ひまわり分校
札幌市立北辰中学校ひまわり分校
学校だより

令和5年9月4日

第18号

2学期の授業が始まりました

2学期を迎え、小学校・中学校で授業が行われています。分校に在籍する子どもたち、みんなに会えることを楽しみにしています。

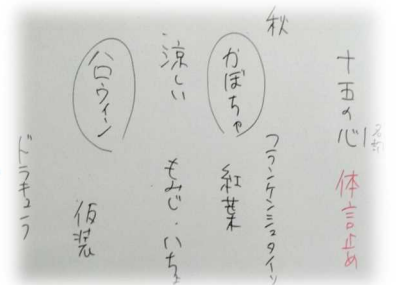
中学校の授業場面から

中学校の国語で、短歌を作るという授業がありました。短歌については、小学校でも学習していますので歌の形式は「五・七・五・七・七」と三十一音から成り立つことを子どもは知っています。聞きやすいリズムになっていることが覚えやすいポイントです。

この学習の小学校と中学校の違いは教科書をみると一目瞭然です。短歌の説明について中学校の教科書の方が、解説が細かく、短歌に込められた意味を作者の気持ちを詳しく説明しています。作品例についても小学校で聞いたことのある作者以外の人々の短歌も掲載されています。これは、多くの短歌に触れ、より多くの短歌を読んで、短歌に込められた作者の思いを感じることが求められています。更に、学習の目標も「多様な語句に着目し、五感を磨く。」「知識や経験と結び付けて読み深める。」となっていますので、小学生に求められることよりもレベルが上がっています。さすが中学生の学習です。

授業場面では、実際に短歌に用いる「言葉」を大切にします。短歌を読んでくれる人に、思いを感じ取ってもらえるような「言葉」が入っているか…等を吟味しながら、短歌が伝えるイメージを膨らませていきます。それを、「五・七・五・七・七」と三十一音にまとめていくのです。

なかなか短歌を作ることは、実生活の中にありません。じっくり考えを深めて短歌を作る経験を国語の授業の楽しみにしたいところです。



「言葉」のイメージを探しています。

小学校の授業場面から

小学校の理科の授業場面「魚のたんじょう」という単元です。みなさんが小学生だったときに教室で「めだか」を飼っていた記憶がある方は、多いかもしれません。小学校で「めだか」という魚を採用しているのは、「子どもにとって身近に手に入りやすい魚だった（今は、地域の環境が変わってしまいました。時代の変化ですね。）こと。」さらに、「めだかの卵は子どもの学習環境（学校）においてもルーペや顕微鏡などで観察が可能であること。」「子どもが観察可能であること。」など様々な理由があります。「卵の中の成長」を検証しながら命の大切さを学ぶことができることに繋がっているため、「めだか」が学習対象の生き物として理科で扱われています。

また、昭和20年代の教科書では、金魚とめだかが扱われていたという記録もあります。金魚も子どもたちにとって馴染みやすい生き物ではありますが、雌と雄の区別の仕方が難しいので扱われなくなったようです。めだかの方が、子どもたちにとっても分かりやすく学習しやすい点からも「めだか」が今も教科書に出ています。



【めだかの雌と雄の見分けるポイント】

- ・腹のふくらみが大きい ⇒ 雌
- ・しりびれの形が平行四辺形に近い ⇒ 雄
- ・背びれに切れこみがある ⇒ 雄 切れこみがない ⇒ 雌

ちょこっと、豆知識！

これから季節の旬の魚として「鮭」がスーパー等で見かけますが、この魚も雄、雌の見分けやすいんですよ。見分ける箇所は、顔の先端（鼻）の形とあごの形です。

